



BETHEL通信

2023年10月号（第243号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>



小さいころの体験を通して



皆様はじめまして。松山ベテル病院4階病棟西フロア主任看護師の菊池です。入職して6年となり、今年の5月から看護主任として勤務しています。

猛暑日が続く夏が過ぎ、朝晩過ごしやすい季節となりました。私は三人の息子の母でもあります。夏休みが終わり、息子たちは2学期の学校生活がはじまりました。高校、中学生となった長男・次男は進路や将来の目標、なりたい職業を考え悩む機会も増えてきたようです。親として願うことはありながらも、それぞれ好きな事を見つけ、いろんな経験をしながら、自分に合った進路や、自分らしく生きられる道に進んでくれたらいいなと願っています。

みなさんは、子どもの頃、進路や将来の職業、夢をどのように見つけ歩んでこられましたか？

私は子供の頃、病院で過ごす時間が多くあり、その経験から看護師に憧れ目指す決意をしました。私は、生まれつき大きな黒あざがあり、4歳から小学校4年生頃まで、毎年夏休みになると植皮手術を受けるために、東京の病院に行き、約一か月の入院生活を送っていました。遠方で、家族の事情もあり、手術の前後数日は母の付き添いがありましたが、あとは独りで過ごす入院生活でした。しかし寂しさを感じることはあまりなく、いつもいろんな人が気にかけてくれ、支えてくれて過ごしていたことを覚えています。患者同士の関わりの中で、年の近い友達も何人かできました。数日前まで一緒に遊んでいた友達が、天国に旅立ったという知らせを聞くこともありました。その子のお母さんが、「今まで仲良くしてくれてありがとう」と泣きながら話にきてくれた時、「そういうことなんだ」と子供ながらに感じました。出会いもあれば、突然のお別れもあるということを知りました。生きようと闘っても思うようにいかない現実、まだまだ人生これからの年齢であっても生きられない命もあること、命の尊さを知りました。

こうした入院生活の中で、世の中にはいろんな病気や障がいをもって闘い、生きようと頑張っている人がたくさんいることを知りました。そして、いろんなケアをしてくれる看護師さんの存在は大きく、私は憧れと尊敬の眼差しでみていました。入院生活の中で見たこと、知ったこと、耐えたこと、感じてきたことが自分を変えるきっかけとなり、今の自分がいます。今こうして看護師として働けることに感謝し、日々の看護の仕事にこれからも精進していこうと思います。

（4階病棟西フロア 看護主任 菊池 和代）



東日本大震災の経験から（１）

2011年3月11日午後2時44分、私は宮城県仙台市の東北大学病院に勤務していました。この日は手術2件を行う予定で、1件目の手術を終えて次の患者さんが手術室に入る準備をしていた時、聞いたことのないサイレンが鳴りました。何事かと周りを見回しても異常はなく、何だろうと思った次の瞬間、強烈な地震に見舞われました。のちに言う「東日本大震災」が起こった瞬間でした。津波や原発等のことは皆さまご存じだと思いますので、幸いにもそれらの被害には遭わなかった私が「困ったこと」をお伝えしたいと思います。（もし南海トラフ地震が起こった時には、松山市内も同じ状況になるかもしれません。）

まず地震が起こった直後から、電気・ガス・水道はすべて止まりました。信号も止まり、帰宅時には大渋滞がおきました。自宅に戻ってみると背丈よりも高い本棚は倒れ、開き扉の食器棚に入れてあった食器はすべて落ちて割れていました。とても1日で片付く状態ではなく、しばらくは足元に注意が必要でした。このような有様でしたから、夜間屋内で過ごすためには懐中電灯だけではとても不便でした。部屋全体をぼんやり照らす、ランタンのようなものがあつたほうが良いと思います。ろうそくもありましたが、光が弱く火事の危険もあるためあまり使うことはありませんでした。電気は3日後の夜に復旧しました。

プロパンガスの場合は業者さんが来てくれればすぐに復旧します。しかし私が住んでいたマンションは都市ガスであったため、復旧に約1か月かかりました。地震で破損したガス管の修復/安全点検のうえ、ガス局職員さんが一軒一軒の住宅を回って開栓作業を行わないとガスが使えないため、非常に時間がかかったのです。すべての飲食店もしばらく休業しましたが、最も早く再開したのは炭火焼き専門の焼肉屋さんでした。なるほどと納得したことを覚えています。

水道の復旧には1週間程度かかりました。飲料水は避難所などでなんとか確保できましたが、困ったのはトイレの水が流せなくなったことです。後に知ったのですが、ビニール製の大きなゴミ袋と大人用おむつがあれば、水を使わずトイレも汚さずに用を足すことができます。具体的にはトイレの便座にゴミ袋を敷き、その上に半分に切ったおむつを載せて用を足します。終わったらゴミ袋ごと丸めて縛り、別のゴミ袋に入れておけば水を使わずにすみます。うっかり貯水タンクに残った水で流してしまうと詰まりますので、注意が必要です。

ほかにも予想していなかった不便なことが様々ありましたが、字数制限のため続きは次回とします。

（ 内科医師 小川 仁 ）



世界患者安全の日



9月17日は、「世界患者安全の日（World Patient Safety Day）」です。

患者安全を促進することへの人々の意識・関心を高め、国際的な理解を深めるとともに、加盟国間の連携や行動に取り組むことを目的として、2019年のWHO世界保健機関の総会において、9月17日を世界患者安全の日とすることが制定されました。

2023年のテーマは

“Engaging patients for patient safety”『患者と取り組む安全の確保と向上』

スローガンは”Elevate the voice of patients！”（患者の声を高めよう！）。

多くの大学病院や地方自治体が「世界患者安全の日」についての啓発活動を実践されています。

松山ベテル病院においても「世界患者安全の日」の認知度の向上を図り、患者安全への意識、関心を高めるため、医療安全管理室前を「世界患者安全の日」のテーマカラーである「オレンジ色」に飾りつけをしました。

患者さま・ご家族の声を聴き、患者さま・ご家族と共に安心・安全が守れるように、取り組んでいきますので、ご協力をお願いします。



（医療安全管理室 看護副部長 松井 美枝子）

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

10月4日（水）、10月18日（水）

◎吉田 暉 医師（神経内科）

10月5日（木）、10月19日（木）

◎多田 聡 医師（神経内科）

10月12日（木）、10月26日（木）

◎10月の休診（9月25日現在）

10月30日（月）益田 紀志雄 医師（整形外科）



松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

10月 接遇目標



接遇委員会

9・10月 医療安全推進目標



医療安全委員会

ベ
テ
ル
旬
会

旅
終
て

主婦にもど
りて
栗を剥ぐ

（河田 和子）

病む身にも
のぞみ

希望を持てと

夏の宵

（菊池 巧）

新

人

紹

介

くりばやし ゆみ
栗 林 由美

配属部署：法人事務局 売店

職 種：販売員

抱 負：皆様にご迷惑をおかけしないよう
一日も早く仕事を覚えて頑張りたいと思いま
す。よろしくお願い致します。



- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人様、ご家族様の許可を得ています。

発行日 2023年9月25日